

西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業および 西洋古典資料保存のためのネットワーク

文部科学省共通政策課題（文化的・学術的な資料等の保存等）の予算配分を受けて2016年度から開始した「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」が2019年3月末をもって終了した。この期間、国内における西洋古典資料の保存水準を全体的に底上げするため、国内の各地方から9人の実務研修生を数週間ずつ受け入れて西洋古典資料保存の中核的人材として育成し、実務研修修了者を協力員として「西洋古典資料保存のためのネットワーク」（略称「ほぞんネット」）を立ち上げ、メーリングリストを用いた情報共有を開始した。これらの取り組みが評価され、第54回国立大学図書館協会賞を受賞し、6月20日の第66回（令和元（2019）年度）国立大学図書館協会総会にて表彰された。また、4～5月には、同事業において作成した「西洋貴重書保存インデックス」を用いて「西洋古典資料の保存に関する全国調査」を実施した。本調査は、各大学図書館における西洋古典資料保存管理の自己点検・自己評価に利用してもらうとともに、社会科学古典資料センターにおいてアンケート結果を集計・分析して西洋古典資料保存管理の全国的状況を把握することを目的としたものである。さらに、12月12日（木）・13日（金）には、九州大学附属図書館と連携して「九州地区西洋古典資料保存講習会・保存実習」（地域保存講習会）を九州大学附属図書館にて開催した。この講習会・実習には九州地区国立大学図書館協会の助成を受けた。

科学研究費基盤研究（C）研究グループへの協力

科学研究費助成事業（基盤研究（C）「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」、2017年度～2019年度、課題番号：17K00465、研究代表者：江夏由樹）に協力し、社会科学古典資料センターが所蔵するメンガー文庫、フランクリン文庫などに含まれる17～19世紀の西欧人が東南アジア・西アジア等各地を旅行した際の記録である書物について、2019年も引き続き内容分析の支援を行った。

科学研究費基盤研究（B）研究グループへの協力

科学研究費助成事業（基盤研究（B）「啓蒙の言説圏と浮動する知の境界：貴重書・手稿・デジタル資料を総合した18世紀研究」、2019年度～2022年度、課題番号：19H01200、研究代表者：小関武史）研究グループに屋敷二郎教授が参加し、社会科学古典資料センターとしても同研究グループの資料調査に協力した。また同研究グループが主催するシンポジウム「書物の記述・世界の記述——書誌が描く18世紀啓蒙の世界」（12月20日（金）開催）に協賛した。

共同研究

国立民族博物館共同研究課題（「博物館における持続可能な資料管理および環境整備—保存科学の視点から」、2017年度～2020年度、研究代表者：園田直子）に馬場幸栄助教が参加し、サステイナブルなIPM対策や海外における博物館の組織編制・建造物等について、文化財を研究する各種機関の担当者らと議論した。

『メディチ家帳簿』のデジタル化公開

ハーバード・ビジネス・スクール (HBS) からの協力依頼に基づき、社会科学古典資料センターが所蔵する『メディチ家帳簿』([Debit and credit account book, 1471-1472]. Franklin:18148, MS-74) の全ページをデジタル化して HERMES-IR (一橋大学機関リポジトリ) にて公開した。
<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/da/handle/123456789/18742>

ひらめき☆ときめきサイエンス

2012年度から毎年行ってきた中学・高校生向けセミナー「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」(日本学術振興会助成事業)を、馬場幸栄助教を実施代表者として2019年も7月15日(月/祝)に実施した。「貴重書・古文書の専門家になろう! 解説・調査・保存・修復に挑戦」と題し、パピルスや羊皮紙の実物を用いた西洋書物史の講義のほか、羽根ペンを使った古書体の書写、古書体の解説、透かしの調査、法制史研究者の研究室見学、ページ修理の実習などを行った。80名以上の応募者のなかから抽選で選ばれた中学生1人・高校生11人が参加した。

第39回西洋社会科学古典資料講習会

10月30日(水)から11月1日(金)までの3日間、以下の講義・見学を開催した。全国から、大学図書館職員をはじめ、国立国会図書館や美術館、科学館などに所属する者を含む28名が参加した。

書誌学

1. 西洋貴重書の目録作成 (1) タイトルページの転記
高野 彰 (元跡見学園女子大学文学部教授)
2. 西洋貴重書の目録作成 (2) 形態の記述
高野 彰 (元跡見学園女子大学文学部教授)
3. NACSIS-CAT形式の目録作成
堀越 香織 (一橋大学学術・図書部学術情報課古典資料係長)

保存・管理

1. 文化財 IPM による図書資料の保存の進め方 ～生物被害からいかに守るか～
吉川 博幸 (株式会社明治クリックス代表取締役社長)
井上 桃子 (株式会社明治クリックス文化財 IPM 事業部係長)
2. 館所蔵資料の保存方針組立の提案と事例
伊藤 美樹 (株式会社資料保存器材)

展示論・生涯学習論

1. 西洋貴重書の展示方法、生涯学習への活用
馬場 幸栄 (一橋大学社会科学古典資料センター助教)

書物史

1. 西洋古典資料の歴史的個性を見抜く
武者小路 信和 (元大東文化大学文学部准教授)

古典研究

1. 19世紀フランス社会思想の一展開
福島 知己（帝京大学経済学部専任講師）
2. 『メディチ家帳簿』から読み解く 中世イタリア商人の商業技術
鴨野 洋一郎（関東学院大学経済学部准教授）

見学

1. 社会科学古典資料センターの見学（書庫，展示，貴重書保存修復工房）
2. 一橋大学附属図書館の見学（希望者のみ）

日誌（2019年1月～12月）

- 2月22日 ボドリアン図書館より見学者来訪（引率：国立国会図書館）
- 3月29日 Study Series No. 75：吉川 也志保『フランス第二帝政期の帝室図書館と帝国文書館に関する委員会議事録（中）附属史料』発行
- 3月29日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第39号発行
今号より冊子体での刊行は廃止し，電子版のみの発行とした
- 4月8日 雲林科技大学より見学者来訪
- 4月15日～5月31日 「西洋古典資料の保存に関する全国調査」実施
- 5月31日 第20回社会科学古典資料センター専門委員会
議題：1 平成30年度決算報告および令和元年度予算案
2 令和元年度事業計画
3 年報投稿規程および Study Series 執筆要項の改正
4 平成30年度事業報告
5 その他
- 6月7日 ブリヂストン美術館より見学者来訪
- 6月20日 国立大学図書館協会賞受賞（「西洋古典資料保存に関する拠点及びネットワーク形成事業」），第66回国立大学図書館協会総会にて表彰
- 6月20日 博物館資料保存論による授業利用
- 6月28日 ザンクトガレン大学より見学者来訪
- 7月9日 古典講読入門（歴史学）Bによる授業利用
- 7月15日 ひらめき☆ときめきサイエンス「貴重書・古文書の専門家になろう！
解読・調査・保存・修復に挑戦」開催
- 7月18日 基礎ゼミナール（森 宜人）Aによる授業利用
- 7月19日 福島大学による授業利用
- 7月29日 カリタス女子中学高等学校より見学者来訪，講義・実習
- 9月12日 科研費基盤研究（B）「啓蒙の言説圏と浮動する知の境界：貴重書・手稿・デジタル資料を総合した18世紀研究」研究グループによる見学・資料調査
- 9月18日 『メディチ家帳簿』デジタル版を HERMES-IR で公開
- 10月12日～ 台風19号により被災した一橋大学附属図書館への支援活動
- 10月30日～11月1日 第39回西洋社会科学古典資料講習会開催

| | |
|------------|--|
| 11月28日 | 千葉大学附属図書館職員に対する保存容器作成指導 |
| 12月12日～13日 | 九州地区西洋古典資料保存講習会・実習開催 |
| 12月20日 | 科研費基盤研究Bシンポジウム「書物の記述・世界の記述——書誌が描く18世紀啓蒙の世界」協賛（主催：「啓蒙の言説圏と浮動する知の境界：貴重書・手稿・デジタル資料を総合した18世紀研究」（科研費基盤研究B）研究グループ） |

利用状況（2019年1月～12月）

| | |
|---------------|------|
| 開館日数 | 221日 |
| 来館者（閲覧者）数 | 151人 |
| （学内） | 69人 |
| （学外） | 82人 |
| 利用（閲覧）冊数 | 277冊 |
| （学内） | 98冊 |
| （学外） | 179冊 |
| 文献複写申込受理件数 | 27件 |
| 複写冊数 | 53冊 |
| 見学者数 | 147人 |
| 講習会・研修会参加者数 | 121人 |
| レファレンス質問件数 | 11件 |
| 学内授業利用回数 | 3回 |
| 学外授業利用回数 | 1回 |
| 館内展示実施回数 | 11回 |
| 館外展示貸与冊数 | 0冊 |
| 学内他部局資料保存修理冊数 | 4冊 |